

# 全国漁業信用基金協会 沖縄支所

## 1. 沖縄県の紹介

沖縄県は日本の西南端に位置し、日本で唯一亜熱帯地域に属しており、年平均気温が23.1℃と1年を通して温暖な気候に恵まれております。

南北約400km、東西約1,000km（およそ東京から九州までの距離）に及ぶ広大な海域に点在する島々で構成されております。

面積は約2,281km<sup>2</sup>で全国では44番目、人口は1,468,634人で全国では25番目となっております。

沖縄県は1879年に日本の一県となりました



が、それまでは琉球王国という1つの国として、日本をはじめ中国や東南アジア諸国との外交・貿易を通して海洋王国として発展してきたという歴史があります。

残念ながら、琉球王国の象徴である首里城は2019年の火災により焼失しましたが、多くの方々の支援を受け、2026年の再建に向け取り組んでいるところです。



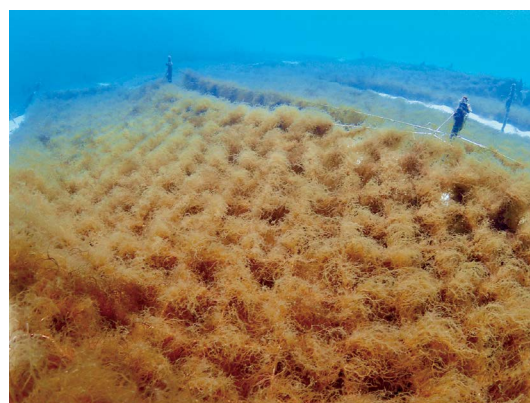
## 2. 沖縄県の水産業

沖縄県の海岸線総延長は約2,037kmで全国4位となっており、沿岸域はサンゴ礁の発達により浅瀬が広がっております。

養殖業は、モズク、ヒトエグサ（アーサ）、クルマエビ、海ぶどうの養殖が盛んです。沖縄県産のモズクは全国シェア99%、クルマエビは33%と、どちらも全国1位の生産量となっております。

漁船漁業においては、マグロ延縄漁業、ソデイカ旗流漁業、曳縄漁業、一本釣漁業、パヤオ漁業、刺網漁業、またサンゴ礁等の浅瀬では潜水器漁業、矛突漁業等が行われており、他県とは異なる多様な漁業が営まれております。

魚種別生産量ではマグロ類が全体の67%、イカ類13%、カジキ類4%となっており、マグロ類はクロマグロ（本マグロ）、メバチマグロ、キハダマグロ、ビンナガマグロの4種類で、全国7位と日本有数の漁獲量を誇っ



ております。また、近海にマグロの好漁場があることから、冷凍せず生のまま出荷され、全国的にも有数の生鮮マグロの産地でもあります。

イカ類については、主にソデイカ、トビイカ、アオリイカの3種類で、特に12月から5月にかけてのソデイカ旗流漁業が盛んです。しかし、近年では漁場の遠方化等の問題が



発生しており、資源管理型漁業への転換が課題となっております。

沖縄県の魚でイメージされるカラフルな魚のブダイ類、ハタ類、フエダイ類等は、一本釣漁業、刺網漁業、矛突漁業等により漁獲しております。なかでもハマダイ、スジアラ、シロクラベラは沖縄の三大高級魚とされ、見た目とは裏腹に非常においしい魚です。



### 3. 沖縄支所の概要 (令和4年12月末現在)

- 住 所：那覇市前島3丁目25-39  
水産会館3階
- 担 当 理 事：新里 勝也
- 担 当 監 事：山入端 孝雄
- 会 員 数：91 会員
- 出資金残高：952 百万円
- 保 証 残 高：4,067 百万円
- 職 員 数：5 名 (内 臨時職員 1 名)



### 4. 沖縄支所の取組

沖縄県の水産業を取り巻く環境は、漁業者の高齢化、担い手不足、水産資源の減少等の課題を抱えております。

近年では、新型コロナウイルス感染症の影響で観光客が激減し、消費の低迷による魚価の下落等の問題が発生しております。また、海底火山噴火に伴う軽石漂着により、出漁見合わせやエンジントラブル等が発生。更に、円安やロシアのウクライナ侵攻等に伴う燃料費高騰も重なり、非常に厳しい状況が

続いております。

当支所といたしましては、国や県の金融施策を活用するとともに、系統金融機関と連携し、引き続き中小漁業者等が必要とする資金に対し、保証機関としての責任を果たしてまいります。

また、本所・他支所とも連携し、業務の効率化に努め、期中管理、求償権管理等を適切に行ってまいります。